

2026 年 8 月 21 日

お客様のスーツなどを再生した「防災毛布」、寄贈先は全国 12 自治体・計 3300 枚に
青山商事、青森県内では初めて「防災毛布」を寄贈 むつ市に100枚
～9 月 1 日「防災の日」を前に備蓄強化を支援。8 月 28 日にむつ市役所にて贈呈式を開催～

青山商事株式会社（本社：広島県福山市／代表取締役社長：遠藤 泰三）は、青森県むつ市へ「防災毛布（災害支援用リサイクル毛布）」100 枚を寄贈いたします。これに伴い、8 月 28 日（金）にむつ市役所にて贈呈式を開催します。当社は 2018 年より、お客様から回収した使用済み衣類の一部をリサイクルし、防災毛布を作製しています。2019 年からこれまでに国内で計 11 自治体・総数 3200 枚を届けており、青森県内への寄贈は今回のむつ市が初めてとなります。



【むつ市 市章】

青山商事株式会社

当社では、①過去に大規模な自然災害を経験した地域 ②災害発生時に物資が届きにくい離島や遠隔地 ③当社の店舗を営業している地域 の 3 つの基準を設けて地方自治体へ防災毛布を寄贈しています。むつ市は、『災害救助法』が適用された 2021 年の「令和 3 年 8 月 9 日 むつ市・風間浦村豪雨災害」や 2025 年の「青森県東方沖地震」など度重なる自然災害に見舞われています。そのため、日頃から災害に強いまちづくりに積極的に取り組まれています。そうした中、現在国の「防災基本計画」や「国土強靱化基本計画」において、有事に備えた自治体と民間企業の協働体制づくりが求められています。1990 年 9 月より地域の皆さまにご愛顧いただいている「洋服の青山 むつ店」が同市にあることから、当社としても地域の防災対策に少しでも貢献できればとの思いで、この度防災毛布を寄贈することになりました。

【贈呈式 概要】

日 時：2026 年 8 月 28 日（金）13:30～
場 所：むつ市役所 第 2 応接室（青森県むつ市中央 1 丁目 8-1）
出 席 者：むつ市 市長 山本 知也 様
青山商事株式会社 執行役員 ESG 推進・コーポレート本部長 長谷部 道丈
洋服の青山 むつ店 店長 首藤 隆
寄 贈 品：防災毛布（災害支援用リサイクル毛布）100 枚／1 枚あたりのサイズ 200 cm×140 cm



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

《本件に関するお問い合わせ先》

青山商事株式会社 東京オフィス 広報部 生田、岩永
〒110-0005 東京都台東区上野 4-5-10 青山上野ビル 7 階
TEL:03 (5846) 5656 MAIL: pr@aoyama-syouji.co.jp

防災毛布（災害支援用リサイクル毛布）の寄贈取り組み

防災毛布は、店頭で回収したスーツなどの一部をリサイクルしています。当社では、お客様と協同するエコ活動の一環として、使用済みの衣類を「洋服の青山」「スーツスクエア」などで回収しています。回収した衣類はリユース・リサイクルによって約99%再利用しており、2018年からは近年の全国的な自然災害の激甚化・頻発化を鑑みて防災毛布へのリサイクルも開始しました。全国47都道府県（離島含む）に営業店を展開する当社として、災害対策に取り組む地域住民の皆さまにお役立ていただければと、2019年より自治体へ寄贈しています。

寄贈自治体	寄贈年	防災毛布の 寄贈総枚数	備考
石川県輪島市	2019年3月／2020年3月／2021年3月／2022年3月	400	3月25日：輪島市民防災の日
新潟県佐渡市	2020年9月／2022年9月／2023年9月	300	9月1日：防災の日
鹿児島県奄美市	2020年10月／2022年10月／2023年10月	300	平成22年10月奄美豪雨災害
熊本県天草市	2021年7月／2022年7月／2023年7月	300	令和2年7月豪雨災害
鹿児島県能郷町	2021年10月	100	平成23年9月奄美大島北部豪雨災害
長崎県島原市	2023年6月／2024年5月／2025年5月	300	平成3年6月3日 雲仙普賢岳大火砕流
佐賀県武雄市	2023年8月／2024年8月／2025年8月	300	令和元年8月 佐賀豪雨災害
宮崎県小林市	2023年9月／2024年9月／2025年9月	300	令和4年9月 台風14号による被害
大分県日田市	2024年7月／2025年7月／2026年6月	300	平成29年7月九州北部豪雨による被害
福岡県田川市	2024年7月／2025年7月／2026年7月	300	平成24年7月九州北部豪雨による被害
沖縄県名護市	2024年8月／2025年7月／2026年7月	300	令和5年台風6号による被害
		合計 3200枚	

回収した衣類から防災毛布へのリサイクル工程



- ・「洋服の青山」「スーツスクエア」などで回収された衣類の一部は、工場で裁断され、ガーネット反毛機で綿状に加工されます。その後、綿状になった原料とポリエステルを混ぜ合わせ、糸の元が作られます。
- ・専用機械で撚りをかけて糸に仕上げます。この糸を紡織機で織り上げて反物にし、高温洗浄にて汚れを溶解し殺菌します。
- ・洗浄した反物を起毛させ毛先をそろえます。反物の端にパイピング仕上げを施して毛布が完成します。
- ・出来上がった毛布は圧縮パック加工し、段ボールに梱包して当社の商品センターにて保管しています。

[◎不要衣類の回収と資源循環についての詳細ページ](#)

資源循環「WEAR SHiFT（ウェアシフト）」の取り組み

「WEAR SHiFT」は、当社が未来の地球を守るために展開する資源循環プロジェクトです。全国の店舗に設置されたリサイクリングBOX※で使用済み衣類を回収し、リユースできる物は海外で古着として流通させるほか、スーツなどの新たな製品や自動車部材へとリサイクルしています。さらに、この取り組みは防災毛布の寄贈を通じた社会貢献や、一般社団法人 more trees(モア・トゥリーズ)への寄付による森林保全にもつながっています。本プロジェクトは、環境省主催の「第12回グッドライフアワード」で、環境大臣賞（優秀賞）を受賞しました。

※リサイクリングBOXには、古着などの繊維廃棄物から作られた環境配慮型素材（繊維100%）を使用しています。

◎終わらない服を作る WEAR SHiFT とは？

洋服の青山 YouTube 公式チャンネル <https://youtu.be/yBbE45gxe0M>



衣類の回収量に応じて一般社団法人「more trees」に寄付

2021年度より、衣類の回収量に応じて森林保全団体「more trees」に1キロあたり2.5円を寄付する取り組み（年間上限100万円）を行ってきました。2024年度からは、1キロあたり10円（年間上限500万円）に寄付額を変更し、取り組んでいます。このほか、2022年12月には当社・more trees・高知県梶原町の3者による「森林保全に関する連携協定」を締結し、『AOYAMAの森』を始動しました。森林保全への継続的な支援を通じ、2025年10月には新たに植樹範囲を拡大。現在は高知県梶原町内の2ヵ所（仲洞地区、井高地区）にて、地域と連携した森づくりを展開しています。



<衣類の回収量に応じた寄付実績>

2023年度：回収量 355,435kg／寄付額	888,588円
2024年度：回収量 347,555kg／寄付額	3,475,550円
2025年度：回収量 289,430kg／寄付額	2,894,300円

■環境省「自然共生サイト」への認定

衣類回収を通じた継続的な支援の成果として、この度『AOYAMAの森』の「仲洞地区」が、生物多様性の回復に貢献する区域として、環境省の「自然共生サイト※」に認定されました。また、当社は2030年までに陸と海の30%以上を保全するという国際目標の達成に向けた「30by30 アライアンス」にも参加しており、今後も多様な生態系を守る豊かな森づくりを推進してまいります。

※自然共生サイトとは：民間の取り組みなどによって生物多様性の保全が図られている区域を環境省が認定する制度です。

◎「AOYAMAの森」詳細ページ

◎環境省「自然共生サイト」詳細ページ

